



服部文庫  
イ 17  
2087  
11





117 特  
2087  
11



の七貝

御 予 おきふは今日もお初めけよそいともり

侍は今日と糸侍えりのいさく侍りつと

て術りてまうりことりつととるゆいなる

えよりてそまうりつと 右邊 貞信公傳

七月の生 いりるをける事おつ七月のそいまれ

るも流るるとそやつとふれ 同上 貞信公傳云云 八月十一年 貞信公傳 七月

怒爪指掌 いとあくしんおつていりくのけりた

ふりてとつとあきりてそれの事 齊信 道長 ありらるふ

齊信 道長



ちうちれぬをそといひついで物もまゝに  
うらやしく流つたれまやまいつまてせりと  
ようを流ひしよにまゝに流ひりたるをよひは  
何なりやうとてうらやとてそ流りなれ

上東院  
大徳寺光傳 右政大臣為光世子誠信仕為左衛門尉享  
元年三十八

女院：彌 かの東山院上東院の御新あら

おとのあまうは成寺乃かいつらと流ひ  
り山のうら地乃すくくしてるに  
この帯つちえしこのすくよあつて上東院と

中せこあり代々の女院の院号よめなきこえ  
らつるやの陽明門この東よあつてわんこの  
とてよあつてつとあつり 都芳門待賢門をよは  
おろおのふと中のふしよ流下かりまゝに  
るよつてつとを流つてつとすつと待賢門院の  
院号乃流こは流つるよあつてつとあつては  
ちしあつてつと 都芳門院をよはけしあつて  
のちよあつてつとあつてつと中流をよひ人の  
この流をよひのこしておろはよを流つてあつて



中戸れはるまじくやははてまつるを多しはるまじくを  
の海あるまじくはつらふまじくを来るまじくを  
上車つのおちりよはつらふ湯吹つのおちり  
しりいろるまじくを喜するまじく  
修世継り月老

いふこ 子孫 いふ いふ 曰は葉のたりを

全泥一切経 全泥の一切経かをもつてはるまじく  
あはだらけいするまじくをすえしとあはれこまじく  
あはちまじくをえはれまじくはるまじく  
ちり 曰はるまじくを 曰はるまじく

佐河百音韻者 山内まよし十四人はるまじく  
よ多しすまじくを治けりて曾女信有とまじく  
あはれまじくをくまじくはるまじく  
くまじく 曰はるまじくを佐河院

四いれまじくを 山内まよし 朱在院くまじく  
まじくはるまじくをくまじくはるまじく  
あはれまじくの中ねれまじくをくまじく  
まじく

ひまじくをくまじくはるまじくをくまじく



はしきとらそてこぶしそくーつらーくまのーり  
まーきんかーけるまよ

どくつるまーるるそくそまのほしはまぬ

月とそそ見 同上 碓礮

車輪戯画 めがうー きくするのくまはむこふを

よのこまよいましてめがうーてちこはかまをえり

あつちそゆーうあつちうさうさうかまをえり ち澄

ち澄 車輪の絵

くらんのとん あつちのあつちまよらうのこくま

のつてくらんのとんとくわてま 清世進々何む

又ハ るいえんかこまをまよー又ハとりいそ吹

きそくまらあまいそくそくまらあまい

うけありらー 同上内宮 後々何進々まよ

一第一切経 ままのままの一切経と一第のまま

あつちまらんとあつちまらんとあつちまらんと

付られ 同上みくらま

らうりまんの 此はのめれと小大進者といいてみた

くらに女うこふ 女房まらあつちまら



まじりてはなかりきん。なまふまじりてのさきふ  
 三糸のうらのねのまもこ位かねるまのほろわ  
 少きそとつゝぬまつのまもとことまじりては  
 か浦まきまよりのゆきまのまよりのまよりの  
 こりまのまよ 同いんせまのまよとまよの  
 とはけいりけまのまよとつげいりまのまよ  
 多けふまよのまよのまよとまよのまよと  
 いれまのまよのまよのまよのまよのまよ  
 いるまのまよのまよのまよのまよのまよ

たひままやかまのまよとつげいりまのまよ  
 かりいれまのまよ 同いんせまのまよ

逆修 ろれおひりかろすまのまよのまよと逆修  
 はりまをまのまよのまよのまよのまよ  
 まよのまよ 同いんせまのまよ

かじん 同いんせまのまよのまよのまよのまよ  
 たり 同いんせまのまよ

わうらん 同いんせまのまよのまよのまよのまよ  
 ろれまのまよのまよのまよのまよのまよ



めいり

信流十二

かの紋かき かき 信流の信はちち中將の信ちち

まをち又の信のしこまておつれまをたは信の太

帆つつもお信のふりそつてなれけしんくも

よんめそそく尺ゆりまののまかまの信の紋乃

ゆりうとまのくまのりまのりまの信の信乃

いと年かき かき 信流の信乃

後鳥羽帝相劍 信流の信乃

ふりまのりもまのりまのりまのりまのりまのり

多らまのりてかまのりまのりまのりまのり

よきまのりてかまのりまのりまのりまのり

信流の信乃 信流の信乃

まをちの信乃 信流の信乃

信流の信乃 信流の信乃

信流の信乃

信流の信乃 信流の信乃

信流の信乃 信流の信乃

信流の信乃 信流の信乃



ぬきこぬきこの長き枝は入流つるにかしらと  
人のぬきこぬきけしをゆつ、ゆるい歌のまじり  
くあて申されよよ同のおりま、ゆねを和は  
ともやまつよよゆねなまこころへ乃のゆきそふ  
くせいりことわや東山のゆきりちりちり人  
よりそくそそそゆきよゆきゆきゆきゆきゆき  
最明寺時頼 時頼然ほは原ええのかり  
おろしてのらまあいて法同とゆきゆきゆき  
たりそれ、國へのあつ、及人のゆきあをを

川くあるくりそきくこのはよりこころをゆきけ  
あせーのやとりよまよりていそのあゆめ、ゆり  
さゆとさいましくゆきりあつ、あつ、あつ、ゆき  
ころとまきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
よゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
おいよるとゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
ゆつ、ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
りゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
てあつ、ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき



又仕入る後の心算をちりぢりあまふ後とて  
あつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら  
われのつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら  
るゝのふすんで教ふにあらうけはまゝあふ  
いつふとのこゝなり最成ちの入たをいひる  
同とて学枕を

そのうへはあつゝいぢらの事 成能つ配あふりや  
らされて内兼つまいまはつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら  
ららめてあらう人の今いこするやうなれいせ方の

うらふと昔が思ひおて

やめうへはあつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら  
の中やあつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら  
せとていぢらたやうはすゝの川似神のあら  
まつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら  
かきあつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら  
りといぢらたやうはすゝの川似神のあら  
いぢらたやうはすゝの川似神のあら  
てはつゝいぢらたやうはすゝの川似神のあら



やうの心とうせよけりやると女房の心のいふり  
かゝる女房もくみせておぼろろをせりしと  
みかきみま一みといふくみりしとわかへり

夜更記

多う山の又けり 多う山をいつまいつらねと  
かて

そのるゝぬたりの山乃てん流り物ゆいとう  
わくとすまきく 悟差をにらた記

よむいほー よむいほーのいよまをくわさるんて

らきい 若原保憲女お集の内

阿す川 むいしとここのかおそはす川と  
いれを立中納めいこいそいと清なるまらりあり  
中納の集よいすこいほとありあうりまらりまらぬれ  
いここのまよかりぬ 若原保憲女お集の内

こらかく うらまをいける山あをいこいけりまらぬ  
かくせしまらせやせられぬいらんあれいそらの  
いのこいそをいそりけり乃あるかまらんとけり  
いそまをいそりけり乃あるかまらんとけり



るるけり

徑嗣公山行幸記

兩聖記 見扶桑拾葉集論管神遇無準之說藤

長親作也長親字子晉號耕雲仕南朝到右大

將大納言

書又つりき、あまこじゆりこつりきこじゆり

晴陰日記

廿四日氏物波の節より

くつりきつりき、い月よりねつりきのいるり

くつりきつりき、い月よりねつりきのいるり

くつりきつりき、い月よりねつりきのいるり

同上

とつりき、いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

大和物波の節より

つりき、いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

つりき、いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

つりき、いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

つりき

いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

つりき、いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

大和物波の節より

つりき、いそかつりき、い月よりねつりきのいるり

つりき、いそかつりき、い月よりねつりきのいるり



山家冬より記右にその外ハ字ありしなり一これハ  
うらむと書くハ一人と書かり是ハ記第葉  
の取見多明也こゝより上篇のありけりて也  
つき物なり 良基公送流地物序

中夜の宴 中夜の宴と申侍ることは後治象  
院天喜四年閏三月に盡二の極也と感し  
て大納言師房上侍と申して就成撰記也  
以歌と歌と清涼殿中夜に群臣とひき  
て清涼殿に集りて酒の宴也

良基公や井の也

みのこのうゝ、きうこのいしうふわのこりごと  
はかりありなれは

よあつふふよほ山人のわのここそきうらつあ  
よのいるら 陸奥日記

西本の本 後多相波の流代よいにし初の上  
とて柳のりこのうゝあなれわらきま歌と  
栗のわらきと名付けられ侍りき柳のわらき  
とてこゝにありき歌をのふそ侍 良基公はよの初



あまのそと 茶<sup>あま</sup>め<sup>の</sup>のそと 是<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>伊<sup>あま</sup>珍<sup>あま</sup>物<sup>あま</sup>め  
せいの出<sup>あま</sup>して茶<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>ひ<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>あ<sup>あま</sup>つ<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>や<sup>あま</sup>て  
そと<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>い<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>物<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>れ<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>目  
ゆ<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>い<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>一<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>一<sup>あま</sup> 目と

いはは 大<sup>あま</sup>師<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>山<sup>あま</sup>比<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>い<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>ん<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>いて  
ま<sup>あま</sup>た<sup>あま</sup>て<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>れ<sup>あま</sup>浮<sup>あま</sup>子<sup>あま</sup>み<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>れ<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>く<sup>あま</sup>千<sup>あま</sup>文<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>乃  
ま<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>い<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>一<sup>あま</sup>あ<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>  
と<sup>あま</sup>し<sup>あま</sup>い<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>字<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>一<sup>あま</sup>つ<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>浮<sup>あま</sup>れ<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>す<sup>あま</sup>  
の<sup>あま</sup>せ<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>ん<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>乃<sup>あま</sup>す<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>ぬ<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>あ<sup>あま</sup>え<sup>あま</sup>傳<sup>あま</sup>り

和河うね日記

鞠の事 中<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>院<sup>あま</sup>より<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>れ  
多<sup>あま</sup>し<sup>あま</sup>せ<sup>あま</sup>浮<sup>あま</sup>つ<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>ぬ<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>日<sup>あま</sup>付<sup>あま</sup>後<sup>あま</sup>去<sup>あま</sup>物<sup>あま</sup>を<sup>あま</sup>成  
た<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>一<sup>あま</sup>人<sup>あま</sup>こ<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>え<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>興<sup>あま</sup>義<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>け<sup>あま</sup>計  
ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>不<sup>あま</sup>思<sup>あま</sup>流<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>刑<sup>あま</sup>罰<sup>あま</sup>つ  
振<sup>あま</sup>捕<sup>あま</sup>つ<sup>あま</sup>成<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>道<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>て<sup>あま</sup>あ<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>法<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>の  
所<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>け<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>形<sup>あま</sup>捕<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>法<sup>あま</sup>字<sup>あま</sup>長  
雅<sup>あま</sup>経<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>お<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>形<sup>あま</sup>捕<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>飛<sup>あま</sup>多<sup>あま</sup>井<sup>あま</sup>の<sup>あま</sup>古<sup>あま</sup>伝<sup>あま</sup>書  
と<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>ん<sup>あま</sup>一<sup>あま</sup>つ<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>と<sup>あま</sup>上<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>り<sup>あま</sup>上<sup>あま</sup>ま<sup>あま</sup>ら<sup>あま</sup>は<sup>あま</sup>る<sup>あま</sup>お<sup>あま</sup>院



世をくらへたる運命をすくすりのすねん  
え二〇の四月より皇とせむとせむる人  
成道の子よ奉をまげし人宗長雅経を  
署の聖表とせしやうりややく大徳法  
大政大臣が言ふ此身して竟家のみ  
といふ中人下人をもいふに  
のあゝん年のみりけりよ  
法へ出さるるあはれし  
乃ゆ神とありや中へ  
豊イ

神主を定られて修むの神  
るの社今より  
兼良公や井の事

めはまらぬ 地よの  
らと

信ふよめ  
福とやせん 兼良公  
山

山をみる井の  
え物のと  
海の山と



は普光園良基撰政の月山風そくこのとあり

連歌の今席金坊は三坊とて付くる後み深石山月見記

東照官薬師化現 東照大権現ハカケケケ

十世呼れけけの心化現ちりともうまより照子

東方萬八千土のこころりしはりあをせころふ

みの山日光のまをとうつまをかりき次物まの江

世中よついのしり記 日光・日光山紀行

浄福臨 昔あゝの里乃遊君浄福臨のまに記と君

ゆね々今ハ名跡の傳中よ成りりといふ泉水島

山をり取清けりと清くほるるまをちり世名の

記ととる橋の西海そのわ敷あふあけり日光

む ねりあまむりいしは々々まんをれす中

こゝのまをむむい梅とてアあなるそのまに

よあわさうあつとともあてむいさうははに

のまをあふまき菊いそのうすのこころあに

よあつんをれい百葉集よとねゆとくあつらる

よそののれりりいさうや 日光百集四序

如泥醉 かうてみるいりていふいいてけい



こつちゆまになれんあひや

こ

初ひらと

そのがらりのとほつち ちよめついなふくひせ乃

かさりののとほつちのやうあふた

いと

今お原氏同村作まきし世にありつてとせとせ

そ ちよめついなふくひせ

いと中

辨句 長なまといふてんたうまうこまわつたうら

ゆつくま<sup>秘句</sup>くくつくくにつくくにつくのつた

ちりちりふくむれよあひやあふくむれあふくむれ

のつてくろあふくとくまをまひ

田下

みそけんこう

みそけんこうのちよめついな

とせとせ

様の子上り

とらよあひ けちちつよたはつちあふくむれ

小あふ

吹あま下



This image shows a blank page from an old book. The page is yellowed with age and features a grid of 12 vertical columns, likely for writing or printing. The grid is enclosed by a top border and a bottom border. There are some small white spots and faint markings on the page, particularly near the top edge.

This image shows a blank page from an old book, similar to the one on the left. It has a grid of 12 vertical columns and a top border. There are some small white spots and faint markings on the page, particularly near the top edge.



以下  
5丁  
白紙



春水滿四澤四句晉顧凱之神情詩

藝文類聚歲時部

梁王僧孺春思絕句詩曰雪罷枝即青冰開水便綠

復聞黃鳥聲全作相思曲

同上



高山方書

高山方書



以下全て  
白紙



